痛風高尿酸血症における耐糖能異常の検討

玉置 繁憲¹⁾ 加藤 隆司²⁾ 甲斐 基一³⁾
小川 邦和³⁾ 山田 貴史⁴⁾ 田中 郁子¹⁾

目 的

高尿酸血症の発症には過食や肥満などの生活習慣が関与しており、当院を受診した患者のうちBMI25以上は51.2%、30以上は11.7%と一般成人男子のそれぞれ30%と4%をはるかに上回る。そこで痛風・高尿酸血症患者における耐糖能異常について検討した。

対 象

当院を受診した男性痛風・高尿酸血症患者901名、平均年齢45歳±11歳を対象とした。

結 果

BMIは平均25.6±5.8で年齢と共に有意な低下が認められた。一方HbA1cは年齢と共に有意に増加し($r=0.242$, $p<0.0001$)、年代別では30歳未満が $5.3\pm0.2\%$ 、30歳台が $5.4\pm0.4\%$ 、40歳台が $5.5\pm0.5\%$ 、50歳台が $5.6\pm0.4\%$ 、60歳以上が $5.7\pm0.5\%$ と10歳毎に0.1%の増加が認められ($p<0.0001$)、空腹時血糖値も同様に年齢と共に有意に増加し($r=0.391$, $p<0.0001$)、30歳未満が 90 ± 8 mg/dL、30歳台が 89 ± 8 mg/dL、40歳台が 91 ± 7 mg/dL、50歳台が 98 ± 10 mg/dL、60歳以上が 97 ± 6 mg/dLと増

加が認められ($p<0.0001$)、特に50歳以上での増加が明らかであった。インスリン抵抗性の指標であるHOMA-Rは加齢に伴う有意な変動はなく($r=-0.058$, $p=0.33$)、年代別では30歳未満が 1.8 ± 1.0 、30歳台が 1.4 ± 0.9 、40歳台が 1.5 ± 0.8 、50歳台が 1.5 ± 0.8 、60歳以上が 1.2 ± 0.7 であった($p=0.303$)。一方インスリン分泌能の指標であるHOMA- β は年齢と共に有意な低下が認められ($r=-0.351$, $p<0.0001$)、年代別では30歳未満が 119 ± 54 、30歳台が 93 ± 53 、40歳台が 86 ± 42 、50歳台が 64 ± 32 、60歳以上が 55 ± 22 と低下した($p<0.0001$)。対象患者数を年齢で3分割しHOMA- β とBMIを検討すると20歳から40歳、41歳から49歳はそれぞれ有意な正の相関を示したが50歳以上では相関を認めなかった。一方、HOMA-Rは3つの年代全てでBMIと正の相関を示した。

考 察

痛風・高尿酸血症患者における耐糖能異常は、加齢に伴うインスリン分泌能の低下が原因と考えられた。肥満に伴うインスリン分泌の増加が失われ、血糖値の上昇が認められる50歳台以前での積極的な栄養指導などの介入が重要と考えられた。

- 1) 医療法人IRO名古屋膠原病リウマチ痛風クリニック
- 2) 国立長寿医療研究センター放射線診療部
- 3) 医療法人IRO三重膠原病リウマチ痛風クリニック
- 4) 中部大学応用生物学部

Shigenori Tamaoki, Ikuko Tanaka
Takashi Kato
Motokazu Kai, Kunikazu Ogawa
Takashi Yamada